

令和8年3月13日

八王子市教育委員会殿

八王子市立陵南中学校
校長 天野 拓二

八王子市立陵南中学校 令和7年度 学校経営報告書

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育目標を実現するための基本方針に基づく取組と自己評価

基本方針	取組	自己評価
確かな学力の育成	①「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、一人1台の学習端末を活用するなど個別最適な学びを行うとともに、また少人数による話し合い学習を行うなど、協働的な学びの一体的な充実を図る。	授業での個人の状況に応じた ICT 機器の活用に努めている。話し合い活動時の意見交換の手段としても活用。また、少人数による話し合い活動を充実させた。
	②体験的な学習を通して、努力することのよさを理解し、学んだことを活かす生徒を育成する。	郊外学習では自分の目で見て、感じ、学んだことを生活に活かした。また、技術家庭科では、既習内容を活かした作製や実習を行った。
	「授業における、説明や板書、ICTの活用などの工夫」肯定的評価 生徒98% 保護者88% 「学級は落ち着いて学習できる雰囲気ですか」肯定的評価 生徒93% 「授業や学校行事に意欲的に取り組む指導ができていますか」肯定的評価 保護者93%	
豊かな心の育成（いじめ防止）	①外部講師を活用した講演会や体験などを通して豊かな心、よりよく生きるようとする力を育む。	福祉体験、人権教室、赤ちゃんふれあい事業性教育などを実施し、自分事として物事を捉え、人を思う行動につながっている。
	②道徳教育において自ら考え、一人ひとりの多様性を尊重し、「より良い生き方」について考える。	「命の学習」、「救急救命講習」、「福祉体験」などでは、一人一人が大切な存在であり、互いの違いを理解し、尊重し合い、友好的な人間関係を築くことができた。
健やかな体の育成	①自らの健康を考え望ましい食生活を送ることができる生徒を育てるため、計画的な食育指導を図る。	昼食時栄養士の指導のもとに食材をテーマにした食育を行っている。
	②保健体育や食育、保健指導、部活動等を通し、心身の健康や体力を増進させるとともに多面的・多角的な見方や考え方を培う。	保健体育の剣道では外部講師を招いての専門的な指導などにより、自己の体や健康についての関心を深めた。
小中一貫教育のさらなる充実	①9年間で育てたい児童・生徒像「自己の良さを知り、それを生かす人」の育成に向け、地域と共に小中一貫教育をより一層充実させていく。	「こどもサミット」を中心に、小中学校での交流を活性化し、東浅川小学校とともに青少対の挨拶運動やクリーン活動、防災訓練に参加している。

不登校生徒への適切な対応	①関係者との連携を密に行い生徒が学級以外で過ごせる場をつくるなど、教の機会を確保していく。	別室（輪室）を整備し環境づくりを行い、利用者が多数いる状況である。不登校巡回指導教員、支援員、学級担任、特別支援専門員等が互いに連携してより良い方向になるよう対応している。
いじめ総合対策を踏まえ、いじめの防止等の取り組みを効果的に実行するための方針	①自他のよさを活かそうとする力や、自己の弱さを認め克服したり、補ったりする力を育成する。また生徒をほめることで自己肯定感を高めるなど、いじめ未然防止につなげる。	年3回のいじめ調査で早期発見、早期対応ができています。問題解消の見守りも着実にいき、再発防止につなげている。
	「いじめのない学校づくりに取り組んでいるか」 肯定的評価 生徒 88% 保護者 81% 「自分の大切さ、他人の大切さを認め、行動できるよう指導しているか」 肯定的評価 生徒 93%	
一人ひとりの教育的ニーズに的確に応える特別支援教育の充実	①生徒の特性や学習上の困難状況を踏まえ、個に応じた環境整備や学習端末の活用、合理的配慮を行い、生徒の自立支援を充実させる	特別支援委員会で現状を確認し、個別の対応策について、特別支援教室や外部機関（主にSSW）と連携し、効果的に行った。
	「特別な支援を必要とする子どもに対して、支援や指導に取り組んでいるか」 肯定的評価 保護者 92%	

(2) 指導の重点への取組と自己評価

分野	取組	自己評価
各教科	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために1人1台の学習用端末を含むICT機器を活用し、個別最適な学び及び協動的な学びの場を一体的に実現していく。生徒一人1台の学習用端末を活用し主体的に学習を調整して学んだり自己の学びを振り返ったりする活動を取り入れ課題解決学習及び自主的、自発的な学習を行う。また各教科の中で「少人数の話し合い学習」を取り入れていく。	数学ではICT機器を活用した個別最適な学び、協動的な学びについて授業づくりを研究し、実践した。発表活動や話し合い活動にも積極的にICT機器の活用を行っている。また、授業のまとめレポートの作成なども端末で作成、送信などを行っている。
	①八王子市学力定着度調査をはじめとする各種学力調査や生徒による授業評価の結果に基づいて授業を行うことで、基礎・基本の定着と学力の向上を図る。また1人1台の学習用端末を用いたドリル型学習コンテンツ等を活用し、放課後学習の取組などの計画を作成する。	特別支援委員会と連携し、放課後学習の効果を高めるよう工夫を行った。放課後学習は、生徒に定着。継続して取り組んだ結果、学力が向上し、意欲が高まった生徒が増えた。
	②数学科及び英語科の授業において東京方式 少人数・習熟度別指導ガイドラインに沿った習熟度別少人数授業を実施し、習熟度に応じた発展的な学習の提示を行うなど生徒の実態に応じた指導を進め、一人ひとりの生徒の学力向上を図る。	数学および英語の授業において少人数授業を実施した。生徒の授業に対する集中力は高い状態を維持している。特に2年生は、1クラス当たりの人数が少ないため、個別対応の機会が増え、きめ細かな指導につながった。

総合的な学習の時間	①郷土学習では学年ごとにテーマを設定し、生徒一人ひとりが探究する。八王子の歴史を知り、よさを学んだり、他の地域との比較を行ったりする等、地域の発展について考え、身近な地域をよくしようとする資質・能力の育成をめざす	八王子、東京、日本と学年が上がるごとに視野を広げながら、郷土の良さについて考えるように指導を行った。地域の教育力を今後も活用していきたい。
	②実社会、実生活の中から課題を見だし、情報を集め、整理・分析する力を育成するため、他の教科と横断的に探究的学習を行い、複数の知識・技能を組み合わせ、適切に活用する授業改善を行う。	2年生に対して車いす体験や盲導犬利用者の講話を行った。また1年生は防災の学習を通して社会活動について考えるようになった。
特別活動	①学級や小集団での話し合い活動の充実によって、人間関係づくりの方法を学ぶ。特に学級活動や学校行事では互いのよさを認めながら、自己存在感や自尊感情、自己決定に必要な資質能力を培う。	学級活動や行事、日常の活動から互いのことを理解し、尊重する態度が生まれている。
	②集団宿泊の行事での集団生活を通し、グループ別行動など自ら立案、計画できる自立的な力を培うとともに、他者と協調して生活する力を育成する。	互いの良さを認め合い、協力しながら、より良い行事になるよう生徒は主体的に活動し、充実した学習となった。
特別の教科 道徳を要とする道徳教育	ア 道徳教育全体計画を基に教育活動を通して、社会生活における正しい判断力・人に対する思いやりの心・生命尊重に徹する態度を育て、豊かな心を育む。	外部機関や人材を活用し、「命」に係わる学習を多数行う。一人ひとりがかけがえのない存在であり、互いを認めあうに意識が高まった。
	イ 「よりよく生きる喜び」、「生命の尊さ」を重点とし、道徳科を要として、道徳的価値について考える機会を意図的に設定し、生徒一人ひとりの道徳性を育む。	道徳の授業だけでなく、各教科の中でも、「よりよく生きる喜び」、「生命の尊さ」について深めることができた。
	ウ 道徳授業地区公開講座において、学校運営協議会委員や外部講師を招いて協議会を行い、地域と連携した道徳教育を推進する。	2年生を対象に道徳の授業を学運協の委員が行った。地域の教育力を活用し、生徒は、興味関心を持って学習に取り組んだ。
キャリア教育	ア 陵南中学校グループが一体となって「はちおうじっ子キャリア・パスポート」の活用を通し、義務教育9年間という中長期的な視点をもって、多様化した社会に適應できるキャリアの選択ができるようにする。	計画的にキャリア・パスポートを活用し、自己について振り返りをさせた。振り返りを通して自己の良さを再発見するとともに、次の目標や解決すべき課題を見出していた。
	イ キャリア教育の視点に立って、自己理解を深め、個と集団の関わりを認識し、将来にわたる生き方を考え、希望をもって自らの進路を切り開くことができるよう、第1学年では職業調べ、第2学年では職場体験や上級学校調べを実施し、第3学年での進路選択等に向けて、指導の充実を図る。	保護者、地域の協力を得てキャリア教育の充実を図った。特別支援学級も2年生で職場体験を行い、上級学校やその先の生き方について学習を深めた。
	ウ 地域・家庭、近隣小学校との連絡をより密にし、生涯にわたって学習しようという意識の向上を図る。	地域との連携を深め、先達から学ぶ機会を設け、その意識を高めた。
	エ 進路学習との関連を重視し、職場体験、外部講師を招いての講話等を通して将来に夢や希望をもち、自己実現できる力を育成する。	地域の企業家や保護者との交流を通して、自己のために学習することの意義を学び、職業調べや職場体験等の報告で発表した。

特別支援教育	①学校生活支援シートや連携型個別指導計画を活用し、生徒の実態把握を組織的に行い、生徒の自立支援を充実させ、個々の生徒への支援を手厚くしていく。	週1回の特別支援委員会で、スクールカウンセラーなどを交えて情報共有、支援方法の検討を行っている。また研修を通して生徒理解の方策について学び、指導に生かしている。
	②特別支援学級及び、副籍交流校と通常の学級との交流を深めるとともに、クリーン活動といった学校外の活動を通して、年齢や障害の有無に関わらず、一人ひとりの異なる価値観について尊重する態度を育む。	学校行事、委員会活動など日常的な活動で交流している。その交流をより良いものにするために特別支援学級の生徒への対応について職員の研修を行った。
生活指導 ア生活指導	①標準服における選択の自由など、実態に応じた校則の改善などを行っていく。 ②外部講師を招いたセーフティー教室などで必要な知識を身に付け、自他の身を守る行動がとれるようにする。	学校のきまり等について、生徒会でも検討を行い、「自治」を意識した活動を行った。スケアードストレート等を行い、自分の身を自分で守ることを指導した。
	③『生命（いのち）の安全教育』を推進し、犯罪や性犯罪・性暴力の被害者、加害者、傍観者にならないよう指導を行い、自分や相手、一人ひとりを尊重する教育を実践していく。	自他を尊重するためにも、守るべきルールについて、指導を行った。
生活指導 イいじめ防止等の取組	①学校いじめ対策委員会を週1回以上開催し、生徒の情報、交換、経過や今後の方針を検討し、出た生徒情報を共有し、「いじめの未然防止・早期発見・早期対応」に取り組んでいく。	学校いじめ対策委員会だけでなく、生活指導部会、学年会などで、情報の早期収集に努めたことにより、いじめの早期発見、早期対応ができ、解消後の見守りも継続的に行った。
	②全学年で年1回の「いじめ防止」をテーマにした授業するとともに、SOSの出し方に関する授業を実施する。年3回ふれあい月間アンケートの実施をし、情報リテラシーの学習の充実も行う。	情報リテラシーの学習を技術科の授業を中心にしている。また、ふれあいアンケートでの情報を共有し、迅速に対応した。
	③八王子のいのちの大切さを共に考える日を6月に実施し、命の尊さをテーマとする特別の教科道徳の授業を行う。	6月の、いのちの大切さを共に考える日に道徳の授業を行い、生徒の心の成長につなげた。
生活指導 ウ 不登校生徒への支援等	①定期的な学年会、生徒との個人面接や保護者との面談を実施し、全教職員、家庭による情報交換を密に行い、必要に応じてスクールカウンセラーなどに繋げる。	別室を活用し、登校できる日を増やす取り組みを行い、登校日数が増えた生徒がいる。不登校生徒数の出現率を減少させることにつながった。
	②登校支援コーディネーターを核とし、個票システムを活用し、生徒の特性に応じた対応を行い、必要に応じて外部機関との連携や一人1台の学習用端末を用いてサポートを実施する。	個票システムを特別支援委員会やいじめ対策委員会で活用し、生徒状況の把握と対応策の作成を行った。SSWとも連携を密にし、サポートの機会を増やした。
特色ある教育活動 ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組	(取組1) 各学期1週間、合同のあいさつ運動を東浅川小学校で行う。	青少対や東浅川小学校と連携し、地域清掃や挨拶運動を行った。
	(取組2) はちおうじっ子ミニマム、市学力調査の結果を共有し、学力定着プロジェクトチームで、共通する課題を見付け、授業改善や、学習定着に向けた補充方法など9年間を見通した指導体制を確立する。	年3回の研修会で、その方向性を確認しあった。また、個別最適な学びについて小・中が連携し研修を行った。

	(取組3) 生活指導や特別支援について、児童・生徒の諸情報を記録、回覧をし、共通理解を深め、全職員で連携して対応をしていく。	定期的に情報を共有し、研修会等で、その方向性を確認しあった。
	(取組4) 青少対主催防災体験やクリーン活動に積極的に参加するようはたらきかける。	生徒会から朝礼等で呼びかけを行い、参加を募った。結果的に多くの生徒が参加した。
特色ある教育活動 イ 学力向上の取組	①長期休業中に国語科、数学科それぞれはちおうじっ子ミニマムの結果を反映したドリル型学習コンテンツを活用して、基礎・基本の定着をめざす	国語と数学の学習について家庭学習につなげるよう、授業の中で、学習コンテンツの指導も行った。
	②放課後学習の拡充を図り、ボランティアを活用し、数学や英語に特化した少人数での補習学習を行う。学校運営協議会と連携し、各学期に、英語検定日・漢字検定日を設ける	漢検4回、英検3回実施。漢字検定では、東浅川小学校の児童も2回参加している。
特色ある教育活動 ウ その他	①陵南中学校グループが一体となって情報活用能力系統表を活用し、プレゼンテーションソフトを使って発表が出来るようにする。また「正しい情報を見極める資質・能力」を系統的に育成する。	小学生向けの生徒会からの説明等で、プレゼンテーションソフトを使って陵南中学校紹介の発表を行った。
	②「陵南中学校2020レガシー」として、地域へのボランティア活動等を通して、地域への郷土愛を育て、地域に貢献できる人材の育成を図る。	生徒会役員等が中心となり、地域の団体や、小学校であいさつ運動やクリーン活動等ボランティアとして活動を行った。
	③地域の町会や団体による諸活動について広報し参加を推し進めるとともに、担当者からその結果情報を得て、その成果を評価していく。	地域の行事について生徒が参加する際、職員や生徒に周知し、ともに参加し、地域と生徒、学校とのつながりを深めることができた。
	④部活動は「八王子の部活動改革」に基づき他校と連携して部活動を行う。また本校の「ふれあいプロジェクト」など地域の諸団体連携した活動を行う。	浅川中や横山中と連携しながら進めることができた。ふれあいプロジェクトの活動では生徒の参加数も増え、地位連携の要となる、重要な活動となっている。

2 次年度以降の課題と対応策

NO	分野	課題	対応策
1	確かな学力の育成	・個に対応した基礎学力の向上に向けた指導方法の工夫。	・学習サポーターの活用や放課後学習、自習教室の更なる充実を図る。 ・1人1台の学習端末を活用した授業方法の工夫・改善に取り組む。
2	豊かな心の育成 (いじめ防止)	・キーワードの一つである「尊重」を常に意識し、現状にあまえず、常に実態に即した指導。	・年3回のいじめ防止研修を確実にを行い、いじめに対する共通認識、指導力の向上を図る。 ・指導のタイミングを逃さず、常に先手の指導を行っていく。
3	小中一貫教育の充実	・キャリア教育も含めた、東浅川小学校と陵南中学校との連携においての、より生徒の主体的な活動。	・小中で一貫した取り組みを行い、小学校での活動が中学校で活かされる機会を作る。 ・実施した内容の広報を継続的に行う。 ・外部、地域の教育力を活用していく。
4	不登校生徒対応	・不登校生徒対応の職員の更なる連携。 ・不登校生徒の学級に戻るプロセスの確立。	・別室の支援員と担任等との連携が図れるよう不登校巡回指導教員、特別支援コーディネーター等を活用する。 ・校内委員会で、巡回教員や外部機関とも連携し方向性を検討していく。

5	特別支援教育の充実	・特別支援教育について教職員の共通理解。 ・通常学級と特別支援学級との更なる連携。	・個に応じた指導について、特別支援委員会等で情報を共有し、理解を深め、共通認識をもって対応していく。 ・インクルーシブ教育の視点をもって指導にあたり、生徒が相互に認め合い、尊重し合うことができる活動を常に考え、行っていく。
---	-----------	--	--